

られる。一方「オミカン、ネンネ」(ミカン  
を食べて寝ること)は明らかに二つの語  
(文)の結合であり、二つの過程が共存す  
ると考えてよいであろう。

幼児の二語の並置には、いくつかの型があ  
げられる。

(1)二つの事象の並置「オミカン、ネンネ」  
(2)関係ある二語の結合「ミカン、チョーダ  
イ」、「カーチャン、オカシ」

一語文の時期は、かなり長いが、この二語  
文の時期はそれに比して短く、三語文の時期  
はより短い。幼児はこのようにして多語文の  
時期に入る。

この頃から、文の結合も可能になる。た  
だ、初期の文の結合は並列文であり、これ先  
述の二語の並置(1)と機能的には同じもの  
であらう。この並列文の時期はかなり長く続  
く。これは、この期の幼児の心性が時間的流  
れに依存しているからである。しかし、二歳  
から三歳になると従属文を含めて各種の文型  
の発達が見られる。牛島らの研究によれば、

文章の長さの発達、文章の数の発達、従属文  
の発達(からの使用)のいずれを見ても、三  
歳が一つの頂点をなしているのであり、言語  
発達の見地から一つの転換期を示している  
といえる。

(びわこ学園研究部)

#### 参考文献

1. Mc Carthy, D. Language development in children. In Garnicael, L. (ed.), *Manual of child Psychology* (2nd ed.). Wiley, 1954, 492—630.
2. Mowrer, O.H. The psychologist looks at language. *Amer. psychologist*, 1954, 9, 660—694.
3. Murai, J. The Sounds of Infants. Their phonemization and symbolization. *Studia Phonologica* 1963/1964, 17—34.
4. 村田孝次 発達初期における談話の機能(1)——その縦断的事例研究——人文研究 一九六〇、一一、四・二八七—三一七
5. 中島誠(他) 音声の記号化ならびに体制化過程に関する研究(1) 心理学評論、一九六二、六、一—四八
6. Stern, C. U. Stern, W. Die Kindersprache. 4(Aufl.) Barth, 1928.
7. 牛島義友、森脇要 幼児の言語発達 愛育研究所教養部紀要、第二輯、一九四三
8. 矢田部達郎 児童の言語 創元社、一九五七

## 幼児の教育 第六十四巻 第四号

4月号 © 定価六〇円

昭和四十年三月二十五日 印刷  
昭和四十年四月 一日 発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津 守 真  
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館  
振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所  
所フレイベル館にお願いいたします。